
光一ヒカリ

ひとり雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光一ヒカリ

【Zコード】

Z5892F

【作者名】

ひとり雨

【あらすじ】

君は僕の「ヒカリ」だった。君の笑顔に照らされた。君の笑顔に救われた。だから、今度は僕が、君のために「ヒカリ」になる。

(前書き)

経験ナシで書いた詩です。
お見苦しい所があるかもしませんが、読んでやってください。

君はいつも僕の隣で輝いていた

ちっぽけな僕を照りすように

泣きじゃくる僕を勇気付けて

弱気な僕の手を引いて 君は笑っていた

君は僕の「ヒカリ」

近くに在るけど眩しくて煌めいている

だけど

突然 光は陰つた

君は悪魔に侵された 光を嫌う悪魔に

それでも君は僕を照らしてくれた

澄み切った笑顔と 勇気が出る言葉で

君はいつだって光り続けている

そのはずだった

悪魔に負けて 「ヒカリ」は途絶えた

君の手は冷たい 僕の手を握る事もない

君の顔は無表情 笑顔になる事なんてない

涙が溢れて止まらなかつた ただ涙が流れるだけ

「ヒカリ」を奪われたからじゃない

僕が弱くて惨めだからだ

何も出来ない

こんなに悔しかつた事は無い

こんなに歯痒かつた事は無い

君がいない世界 光を失つた闇のよう

でも 君はどうだろう

闇の中でも ひとりぼっち

笑うことも 泣くことも

もう 出来ない

僕よりも強くて あたたかな君が

だから僕が「ヒカリ」になるよ

君に認めてもらえるくらい

君に笑ってもらえるくらい

強く輝けるように

君の閉じた瞼の裏にまで届くよう

僕は強い「ヒカリ」になりたい

君が僕を支えてくれた

「ヒカリ」だったよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5892f/>

光ヒカリ

2010年10月28日07時14分発行